奈之良
Nai Zhi Liang
第 2 期
大和郡山篇
中文繁體版
奈 良
の
良 い 所

① P4-5 金魚游動著的城下町

金魚が泳ぐ城下町

② P6-7 “游動的圖鑒” 訪問郡山金魚資料館

泳ぐ図鑑・郡山金魚資料館を訪ねて

③ P8-9 金魚的天堂 在郡山體驗撈金魚♪

金魚天国郡山で金魚すくい体験

④ P10-11 在町屋體驗靛藍印染

町屋で藍染め体験

① 郡山城址

郡山城跡

③ 撈金魚的道場
小竹屋

金魚すくい道場「こちくや」

② 郡山金魚資料館

郡山金魚資料館

④ 箱本館 紺屋

箱本館紺屋

“金魚游動著的城下町”

大和郡山市

「金魚が泳ぐ城下町」

大和郡山市
Mouloud・Hammadou

大和郡山是郡山城的城下町（城下市鎮），12 世紀建成，發展成為奈良縣的主要城下町之一。郡山古城櫻花爛漫，被選為日本櫻花名所 100，每年 4 月份第一周開設“古城祭典”，遊客如織，紛至沓來。

古城祭典與賞花

お城祭りとお花見

我遊覽大和郡山是在“古城祭典”活動結束、大和郡山恢復平靜後的 4 月中旬。一出近鐵郡山站就已經來到了郡山城的城下町。這裏沒有繁華，也並不熱鬧，但是飄蕩著歷史古城的寂靜感和平靜安寧的氣息。

大和郡山，每走一步，處處皆景，各有不同。既有古代民房連綿的道路，又有小運河流淌的街道。這來源於安土桃山時代（16 世紀）的郡山城主-豐田秀長的“箱本制度”。

秀長為了保護工商業，將同業者聚集在同一街道，給每個街道頒發特許狀。“小運河” 據說是用來染布的，位於染布商居住的紺屋町（染布商的街道）。這個制度也成為大和郡山各個町名稱的由來。在大和郡山，住戶的職業原封不動地體現在町的名稱上。比如說，大阪府堺市的商人曾經居住的聚集地取名為堺町，豆腐商人居住的町取名為豆腐町。是不是很有趣？每條街道都展現不同的氣氛，這還有一個原因。那就是各個時代的建築風格均有留存。郡山城址自不必說，此外還可以看到以兩層建築為特色的江戶時期（1603-1868 年）的町屋、建於明治時期（1868 年-1912 年）及大正時期（1912 年-1926 年）的西洋建築、以及留有昭和時期（1926 年-1989 年）余韻的商店街，可以穿越到日本的各個時代。

此外，郡山城址現在僅留存了望樓和大門，但可步行至一個叫天守臺的地方，推薦您觀光時可以去那裏小憩。

另外，觀賞時如果和自己國家的城堡、要塞城鎮作比較的話，也別有一番樂趣。我的國家法國有一個名叫卡爾卡松的要塞城市，現在已經加入了世界文化遺產。在要塞城壁中發展起來的卡爾卡松，與以城鎮為中心發展起來的郡山相比較的話，我認為二者在城鎮擴展方式與發展過程上是不同的。

江戶時代的望火樓

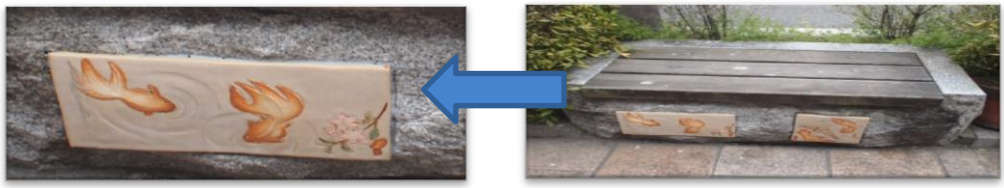
江戸時代の火の見やぐら

縱橫交錯的江戸情趣的街道

道が迷いやすい江戸らしい町並みの街

我剛才講述了大和郡山城鎮的歷史魅力，其實大和郡山城鎮的魅力不僅限於歷史。

從明治時期到現在，在金魚繁殖興盛的大和郡山，養殖池和小河流自不必說可以看到金魚，就連下水道井蓋和店鋪的招牌，隨處都可以看到大量的金魚在“遊動”著。只要用心探索，看看城鎮中哪些地方金魚在遊動，就一定會有更多、更新的發現在等著你。對於好奇心旺盛的孩子們來說，比起歷史的話題，尋找金魚可能會更富有樂趣。漫步於擁有各個時代風貌的城下町，請享受一家人找尋金魚的樂趣吧！



金魚也在這兒遊動啊！！！（左圖是長凳上的金魚圖案）

金魚はこんなところにもいます !!!（写真はベンチ）

大和郡山は郡山城の城下町です。12 世紀の築城以来、奈良県の主要な城下町のひとつとして発展してきました。郡山城跡に咲く桜は大変きれいで、日本の桜の名所 100 選にも選ばれています。例年 4 月の第 1 週には「お城まつり」が催され、たくさんの花見客が訪れます。

わたしが大和郡山を訪れたのは、お城まつりが終わり、大和郡山が静けさを取り戻した 4 月中旬のことでした。近鉄郡山駅を一歩出ると、そこにはもう、郡山城の城下町が広がります。華やかさやにぎやかさはありませんが、歴史のある町の落ち着きと静けさが漂っていました。大和郡山は、通りごとに町なみががらりと変わる町です。古い町屋が続く通りもありますし、小さな運河が走っている通りもあります。これは、安土・桃山時代（16 世紀）の郡山城主、豊臣秀長の「箱本制度」に由来します。秀長は商工業保護の政策として、同業者を町ごとに集め、町々に特許状を与えて保護しました。「小さな運河」は染物商が住んでいた紺屋町（染め物商の町）にあったもので、染め物に使われていたそうです。この制度は大和郡山の町の名前の由来にもなっており、住人の職業がそのまま町の名前になっています。たとえば、今の大阪府堺市の商人が住んでいた町は堺町、豆腐商の商人が住んでいた町は豆腐町です。おもしろいですね。

大正時期的西洋建築

大正時代に建てられた洋風建築

通りごとに町なみが変わると感じる理由はもう一つありました。それはいろいろな時代の建物が混在して残っていたことです。郡山城趾はもちろん、低い 2 階建てが特徴的な江戸時代の町屋や明治・大正時代に建てられた洋風建築、昭和時代の名残を残す商店街などがあり、日本のいろんな時代へタイムスリップすることができます。なお、郡山城趾は近年、櫓や門を再建されており、天守台のあった場所なども歩くことができます。

あるいは、みなさんの国にある城や要塞都市の町なみと比較して観光するのも、面白いかもしれません。わたしの出身国フランスには世界遺産になっているカルカソンヌという要塞都市があります。要塞の壁の中で町が発展したとカルカソンヌと城を中心として町が発展した大和郡山では、町の広がり方や発展過程が異なるように思いました。

大和郡山の町の歴史的な魅力をお話ししてきましたが、大和郡山の町の魅力は歴史だけではありません。明治時代以来、現在でも金魚の養殖が盛んな大和郡山では、養殖池や小川はもちろんのこと、マンホールのふたやお店の看板など、町中のいたるところで、金魚がたくさん“泳いで”います。町を探検してみれば、どんなところに金魚が“泳いで”いるか、きっとたくさんの発見が待っていることでしょう。好奇心旺盛なお子さんには歴史の話よりも金魚探しの方が面白いかもしれませんね。

さまざまな時代の面影を残す城下町を散歩しながら、家族で金魚探しを楽しんでみてください。

“遊動的圖鑒”訪問郡山金魚資料館

開運的治愈空間

張敏

泳ぐ図鑑・郡山金魚資料館を訪ねて

—開運をもたらす 癒やしの空間—

奈良縣大和郡山市是日本的金魚故鄉，這裏的金魚養殖歷史悠久，可追溯到 1724 年。據傳，為了觀賞的目的，郡山城主柳澤吉裏的家臣橫田叉兵衛將中國的金魚帶到了日本。金魚養殖在幕府末期是下級武士的副業，到了明治初期逐漸成為農民的副業。現在，大和郡山市的金魚養殖戶大約有 70 家，年產量約為 9000 萬匹，是日本數一數二的金魚產地。該地擁有悠久的養殖金魚歷史，這是其受遊客歡迎的原因之一，為了發現更多的魅力，我們在金魚的產卵期——4 月份參觀了郡山金魚資料館。

出近鐵郡山站後向南走，可見古色古香的日本住宅，亙古未變的街道充溢古老的氛圍，然後景色煥然一新，映入眼簾的便是金魚養魚場了。沿著環繞養殖池的狹窄道路，我們看見了郡山金魚資料館的白色招牌。名叫“大和錦魚園”金魚養殖場的設立者嶋田正治，為了宣傳金魚的歷史和文化自費創立了這家金魚資料館。入館費免費。資料館的展覽室中，陳列著關於金魚的資料、書籍和工藝品。其中有一篇關於創立者嶋田正治在中日尚未建交的上世紀 50 年代後半葉，如何從中國引進金魚，歷盡艱辛、嘔心瀝血精心培育的報告，還有一篇《夏天的景物詩—北京的金魚》描寫北京天壇附近金魚池的報道，這讓我們感到大和郡山的金魚和中國金魚有著深厚的淵源，饒有趣味。

金魚土鈴

土鈴是一種土質的鈴鐺。作為民間工藝品和玩具深受喜愛，古時是一種除魔的道具。大和郡山最為流行的要數赤膚燒的金魚土鈴，刻成紅色的金魚模型，是樸素的初夏風物詩。赤膚燒的金魚土鈴是江戶時代管理郡山的城主柳澤的愛物。充滿神秘氣息的金魚土鈴，會給您帶去好運氣呢。

金魚錦繪

錦繪是一種多彩印刷的木版畫，屬於浮世繪的一種。上面描繪著色彩絢麗的金魚姿態，有美女、貓、兒童登場，展開如同物語般的世界畫卷。

展覽室旁邊是具有日式風格的古樸庭院，圍繞著庭院的是一圈大魚缸，仿佛“遊動著的圖鑒”，從原始到最新的各種金魚，都能夠觀賞得到。

和蘭獅子頭（1）是 1789 年從中國經過琉球傳到長崎的一款金魚品種。當時還處於鎖國狀態的日本，將舶來品稱為“和蘭物”，由此得名。頭部頗為特別，有一顆透明的球狀瘤裝飾，宛如歐洲貴族女性的發型一般華麗綻放。

櫻東錦（2）的魚鰭宛如神女的衣裳一樣包裹全身，在水中飄逸搖曳，身體紅白相間，給人一種活潑清爽的感覺。

濱錦（3）是一種與櫻東錦同樣身體紅白相間、魚鱗富有特色的一款金魚。濱錦的魚鱗是由圓圓的隆起的石灰質構成，也叫做珍珠鱗。表情可愛，溫柔嬌小，讓人不禁聯想起宮崎駿的《懸崖上

的金魚公主》呢。

每種金魚都是追求美麗，努力交配的結晶。觀賞金魚時，俯瞰、側看兩相宜。您是否也和我們一樣深深地被反復研製的歷史積澱與金魚的深層次優美所折服呢？，除了鑒賞金魚外，您還可以欣賞富有情趣的和風庭園。

此外，“金魚”的發音與漢語的“金余（金錢余下來）”十分相似。在日本，金魚的紅色被認為是“驅魔”的顏色。兩種寓意結合起來看，金魚實在是一種“開運的存在”。

日本金魚學術研究的始祖・松井佳一博士的胸像

日本の金魚、学術研究の祖・松井佳一博士の胸像

郡山金魚資料馆

奈良縣大和郡山市新木町 107

電話：0743-52-3418

近鐵郡山站向南徒步 10 分鐘

飼養金魚需要不斷追求更加精煉的美，這是一門多麽精彩的藝術啊。在郡山金魚資料館不僅能將金魚的珍貴資料、古籍大飽眼福，而且能在賞玩民間藝術品的同時，欣賞如藝術品般絢爛的金魚，領略富有情趣的日本庭院，可謂一舉多得啊。

日本の金魚の故郷と言われる奈良県大和郡山市は、その金魚養殖の歴史が古く、1724 年まで遡ります。郡山城主柳沢吉里の家臣横田叉兵衛が、中国金魚を観賞用に持ってきたのが始まりと伝えられています。現在、大和郡山市の養殖業者は、およそ 70 軒で、年間およそ 9000 万匹の金魚を育てている、日本有数の金魚の産地です。古い歴史を持つのがその人気の理由の一つですが、更なる奥深い魅力を見つけようと、金魚の産卵時期である 4 月中旬頃、私たちは郡山金魚資料館に訪れました。

近鉄郡山駅から、南の方へ歩いていくと、古めかしく優雅な家屋が見られ、昔から変わらない古い街並みの雰囲気が漂いますが、景色はすぐに一変し、金魚の養殖池が一面に広がります。養殖池に囲まれた細い道を歩いて行くと、郡山金魚資料館の白い看板が見えてきます。 この資料館は、金魚の養殖業を営む「やまと錦魚園」の設立者、嶋田正治氏が、金魚の歴史や文化をより多くの人々に知ってもらえるように私財を投じて創設したそうです。公的な施設ではありませんが、入場料は無料です。資料館の展示室には、金魚に関する資料や書籍、民芸品が展示されています。嶋田正治氏が 1950 年代後半に、当時国交がなかった中国から金魚を輸入し繁殖に努力してきた経緯に関する記事や、北京の天壇付近の金魚池の風景を取り上げた記事は、大和郡山の金魚と中国の金魚の深いゆかりを感じさせ、大変興味深いものでした。

金魚土鈴：土鈴は土製の鈴です。民芸品やおもちゃとして親しまれ、古くは魔除けの道具だったと考えられています。大和郡山の定番である赤膚焼の土鈴は、赤い金魚の形が模され、素朴な初夏の風物詩となっています。赤膚焼きの金魚土鈴は、江戸時代に郡山を治めた、柳沢氏の愛玩でもあったそうです。金魚土鈴は、神秘的な雰囲気が吹き込まれ、幸運をもたらすでしょう。金魚錦絵：錦絵は多色刷りの木版画で、浮世絵の一種です。 見目麗しい金魚の姿が鮮やかに描かれています。美しい女性、猫、子どもが登場し、物語のような世界観が展開されています。

展示室の側には、和風の素朴な庭園を囲むように大きな水槽がいくつも並べられ、まるで「泳ぐ図鑑」のように、おなじみの小さな赤い金魚から珍しい種類のものまで、たくさんの種類の金魚を実際に鑑賞することができます。

和蘭獅子頭（オランダシシガシラ）（1）は 1789 年頃に中国から琉球を経て長崎に渡来した金魚です。当時、鎖国状態だった日本では外国からの渡来品を「オランダ物」と呼んでいたことから、そう呼ばれるようになったそうです。こぶのある特徴的な頭は、まるで透明感のある玉に装飾された、ヨーロッパの貴族婦人の髪型のようです。**桜東錦（サクラアズマニシキ）（２）**は、まるで天女の衣のように揺れるヒレと紅白のうろこの模様が特徴です。紅白の模様なので、明るくすっきりした印象を受けます。**浜錦（ハマニシキ）（３）**は、桜東錦と同じように紅白の色をしていますが、うろこに特徴のある金魚です。浜錦のうろこは丸く盛り上がった石灰質でできており、パール（真珠）うろこと呼ばれているそうです。愛嬌ある表情とあいまって、とても可愛らしい金魚です。宮崎駿監督の映画「崖の上のポニョ」を連想してしまいました。

金魚はどれも美しさを追求した交配の努力の結晶です。金魚の鑑賞は金魚の姿を上から愛（め）でることも、横から愛でることもできます。より美しくより優雅な金魚を求めて、交配を重ねてきた歴史と金魚の美しさの奥深さが感じられることでしょう。また、金魚鑑賞のほか、趣のある和風庭園も楽しめます。

ちなみに、「金魚（キンギョ）」の発音は中国語の「金余（キンヨ；お金が余る）」という発音に非常に類似しています。また、日本では金魚のような赤色は「厄除け」の色と考えられてきたそうです。これらのことを合わせて考えると、金魚は広く「縁起の良い存在」なのだと思います。

より洗練された美しさを追求して、金魚を育てていくことはどれほど素晴らしく、芸術的なことでしょうか。郡山金魚資料館は、金魚にまつわる貴重な資料や書籍、民芸品はもちろん、まるで芸術品のような美しい金魚と趣のある日本の庭が同じ空間で感じられる場所でした。

金魚的天堂
在郡山體驗撈金魚♪
金魚天国郡山で金魚すくい体験♪

文閏貞

撈金魚道場的場景

金魚すくい道場の風景

“漁網（POYI）的獨白”作為土特產大有人氣！

ポイの独り言はお土産として大人気!

日本的夏季祭典中，經常會看到穿著浴衣享受撈金魚樂趣的孩子和大人们。祭典和撈金魚對於日本人來說是夏季的風物詩，對於遊客來說是躍躍欲試、千載難逢的趣味遊戲。今天我們走訪了可在全年體驗撈金魚的名店--撈金魚道場・小竹屋（Kochikuya）。

“撈金魚道場・小竹屋”位於距離近鐵郡山站步行 10 分鐘左右的紺屋町。沿著富有風情的運河，向東信步走去，就會看到一家用紅布做成的巨大金魚裝飾的建築，那就是“撈金魚道場・小竹屋”。

走進店裏，以金魚為模型的工藝紀念品熱情地迎接著遊客。禮品店同時也是“撈金魚道場・小竹屋”的前臺，與金魚相關的禮品琳瑯滿目，從金魚花紋手絹、挎包、茶盤等日用品，到風鈴、蚊香、白鐵皮金魚玩具等令人難忘的禮品，種類繁多。最有人氣的是漁網（撈金魚時使用的紙質漁網），特別之處是社長親筆題詞的“漁網（POYI）的獨白”字樣。探尋充滿社長幽默感的“漁網的獨白”，也別有一番情趣。店裏還反復播放著“金魚、金魚～♪”歡快的音樂。這裏簡直就是充滿了金魚的世界。

在店的前臺購買漁網，往裏走就來到撈金魚的道場了。在這裏我和遊動著的金魚們見面了。幾個藍色水槽並排擺放，紅色和黑色的可愛金魚在歡快地暢遊。不同的水槽裏，金魚遊動的速度和種類有所不同，撈金魚的難度也會有差別。

我是初次挑戰撈金魚，所以選擇了較容易的水槽。事先讓店員教給我了撈金魚的技巧*，但是實際操作起來並沒有想象得那麼容易。在追逐四處逃竄的金魚時，第一個漁網立刻就破了。

但是也不能空手而歸啊。我又買了第二個漁網再次挑戰。漁網在水中若是動彈的話會立馬破碎，所以第二次我按兵不動，打算當金魚從漁網上通過時一舉捕獲。果不其然，金魚通過漁網上方的瞬間，將網的邊緣斜著撈就成功啦！我終於撈起來了一條可愛的金魚。用這個方法，我接著又撈起了一條又一條的金魚，共計 8 條！雖然是初次體驗，但是大獲全勝。首次撈金魚，我不知不覺就著了迷，忘記了時間。

在道場的墻壁上，掛著一幅寫有門下生（門第）名字的招牌，段位從初段到 8 段。據說有一種

撈金魚的技巧
金魚の上手なすくい方

① 漁網要斜著進入水中，移動時要保持水平！（上下移動會破網）
ポイを水中に入れる時は斜めに、水中で動かすときは水平に！（上下移動だと破れやすい）

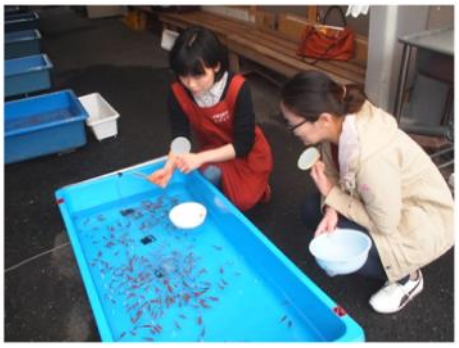
② 要從魚頭或魚腹的下方撈起。
金魚をすくう時は頭またはお腹の下から。

③ 金魚逃跑時，不要在水中追趕。
金魚が逃げたら水中で追いかけないこと。

④ 不要將漁網垂直擡起，而要斜著擡起
ポイは真上にあげないで、斜めにあげること。

⑤ 註意先接觸金魚身體的一部分，然後將金魚整個撈起。
金魚の身体の一部が乗っているように心がける。

★ 最主要的是**保持喜歡撈金魚的熱情！**
なによりも**金魚すくいが大好きになる**こと！



看誰在 1 分鐘內撈起的金魚最多的比賽，然後進行排位，這裏可謂撈金魚的名譽殿堂之地。門下生中除了有名的藝人和偶像，也有從泰國、香港慕名而來的外國遊客。在異國留下自己的名字有著特別的意義，請在拜訪道場時也一定來這個殿堂挑戰一下吧。全國的撈金魚名人相互爭奪排位記錄，會場裏有很多遊客及來加油的人，熱鬧非凡。這些撈金魚的水槽是為了讓比賽更加順暢而設置的，可在任何時候練習，這就是道場形成的最初模式。今年第 20 屆大賽在即，選手們也在道場積極地練習著。

大家来到大和郡山时，不妨来“撈金魚道場・小竹屋”親自感受一下與可愛的金魚相碰觸的日本傳統文化吧！

日本の夏祭りでは浴衣姿で金魚すくいを楽しむ子供や大人をよく見かけます。お祭りと金魚すくいは日本人にとって夏の風物詩であり、日本を訪れる観光客にとっては一度は体験してみたい面白い遊びです。今日はその金魚すくいが年中体験できる「金魚すくい道場　こちくや」を訪れてみました。

「金魚すくい道場　こちくや」は近鉄郡山駅から徒歩 10 分ほどの場所に位置する紺屋町（こんやちょう）にあります。風情のある運河に沿って東の方へ歩いていくと、赤い布でできた巨大な金魚が飾ってある建物が見えてきます。そこが「金魚すくい道場　こちくや」です。

お店に入ると金魚をモチーフにしたたくさんのグッズが訪問者を出迎えてくれます。「金魚すくい道場　こちくや」の受付は「おみやげ処」を兼ねています。店内には金魚の模様が入ったハンカチやバック、コースターなどの実用品から風鈴や蚊遣器、ブリキの金魚のおもちゃなど懐かしいものまで、金魚に関係するありとあらゆるおみやげが所狭しと並んでいました。ポイ（金魚すくいで使用する紙製の網）に社長直筆のメッセージを書いた「ポイの独り言」は特に人気のあるおやげだそうです。社長のユーモアあふれる「ポイの独り言」を探しに行くのも訪れる楽しみの一つかもしれません。店内では「キンギョ、キンギョ～♪」という楽しい音楽も繰り返し流されています。まさに金魚だらけの世界です。

店内の受付でポイを購入し、奥へ進むといよいよ金魚すくい道場です。ここで本物の金魚たちに会うことができました。いくつもある青い水槽の中では、赤色や黒色のかわいい金魚が元気に泳いでます。水槽によって金魚の速さや種類が違うので、金魚すくいの難しさが変わるそうです。

金魚すくいが初めてだったわたしは易しい水槽で挑戦してみました。上手にすくう方法*を事前に教えてもらいましたが、中々思い通りにはいきません。1 枚目のポイは、あちらこちらに逃げる金魚を追いかけているうちにすぐに破れてしまいました。

1 匹もすくえずに帰るわけにはいきません。2 枚目のポイを買って再挑戦しました。水中でポイを動かすとすぐに破れてしまうことを学んだので、2 枚目のポイはあまり動かさずに金魚がポイの上を通るのを待つ作戦をとりました。ポイの上を金魚が通った瞬間、ふちを利用して斜めにすくいあげると・・・成功です！ 1 匹のかわいい金魚をすくうことができました！この方法で次々と金魚をすくいあげ、2 枚目のポイでは、計 8 匹の金魚をすくうことができました！初心者にしてはよくできたほうでしょうか？はじめての金魚すくいは、思わず時間を忘れてしまうほど熱中してしまうものでした。

道場には、門下生の名前が書かれた板が掲示されていました。段位は初段から 8 段まであります。1 分間にすくえる金魚の数で段位が昇格していく試験があるそうです。まさに金魚すくいの名誉の殿堂と呼べるような場所ですね。門下生の中には有名な芸能人やアイドルのほか、タイや香港から来た外国人観光客の方の名前もありました。異国の地で自分の名前を残すことはとてもいい記念になると思いますので、道場を訪れた際は、観光客の方もぜひ殿堂入りに挑戦してみてください。

金魚の特産地として有名な大和郡山市では、毎年 8 月に全国金魚すくい選手権大会が開催されています。全国から集まった金魚すくいの名人たちが記録を競い合い、会場は観光客や応援しに来た人々で大変にぎわいます。道場は大会を盛り上げるために、いつでも金魚すくいの練習ができるように水槽を設置したのがその始まりだそうです。今年で 20 回を迎える大会を控え、出場予定者の方も道場で練習に励んでいます。

大和郡山に来られるみなさんも「金魚すくい道場　こちくや」に立ち寄り、可愛い金魚と触れ合える日本の伝統文化をぜひ体感してみてください。

撈金魚道場・小竹屋

奈良縣大和郡山市紺屋町 23－1
TEL 0743-55-7770

在町屋體驗靛藍印染

町屋で藍染体験

Jennifer・Kim

提起大和郡山市，大家可能首先會想到金魚吧。沒錯，在街燈、道路上的標識、下水道井蓋、以及出近鐵郡山站後引入眼簾的商店街招牌上，城中隨處可見“遊動”的金魚。可是，您可能不知道，在大和郡山還能體驗日本傳統的靛藍染布工藝。

從近鐵郡山站向東徒步 10 分鐘，就會看到一個名叫“紺屋町”的街道。“紺屋”就是染坊，以前這個街道上大約聚集著 20 家染坊，所以“紺屋町”由此得名。紺町屋至今還流淌著手工藝人為染布而專門挖制的小河。

這次，我們走訪了一個名叫箱本館“紺屋”的染坊，這裏同樣可以感受得到大和郡山市的象征--金魚帶來的樂趣，同時當然還盡情體驗了印染手帕的工藝。箱本館“紺屋”創始於 17 世紀，是一家以印染為生的町屋（城鎮的商家）改裝而成的染坊，距離撈金魚的道場“小竹屋”（請參照第 8－9 頁）很近。走進“紺屋”後，可以看見許多以金魚為主題的工藝品和美術品，再往裏走就來到了印染的工房。在這裏，從簡單的手帕到包包、再到復雜的披肩，您可以體驗到印染各式各樣的物品。

首先，我們就印染的歷史詢問了手工藝者天野小姐。據她講，靛藍顏料作為民眾所熟知的染料，從古時就用作印染包袱皮和布簾。19 世紀以後，隨著化學染料技術的發展，生產靛藍原料的從業者越來越少，靛藍成為高級的染料，最近有研究表明靛藍還具有殺菌和除臭的功效，再次被世人矚目，得以重新評價。

聽了天野小姐的介紹，我開始設計手帕的圖案。憑借想象力，就能設計出世界上獨一無二的手帕哦。用石頭、筷子、橡皮圈、膠卷盒等身邊隨處可見的物品就可做出防染部分，無需多加考量，我像孩子一樣隨意使用道具開始了設計。

在工房外穿戴圍裙、橡膠長筒靴、橡膠手套，經過一番全副武裝後，接下來我們開始染手帕。先將手帕浸水後擰幹，然後滲入染缸的染液中緩慢地擺動手帕。

Q：染料中是什麼液體？

這是為靛藍印染用的染料，由藍靛葉、石灰、酒、小麥殼等混合而成。加入灰水，經過緩慢發酵後大約兩周後制成。保存時間根據制作方法有所不同，大約可存放兩個月至十個月。染料就如同生物一般，會仔細地調節內部狀態的好壞。

首先將手帕中的水分使勁地擠掉，然後浸入缸中緩慢地擺動就不會給生物染料增加負擔。工房中六個水缸周圍有許多時鐘，印染時請看著鐘表測算浸染的時間。

有趣的是，手帕浸染 1 分鐘從缸中取出後會呈現綠色，而隨著氧化的推進，逐漸會變成藍色。浸染後要用水洗。

※小貼士：隨喜好將染布印染到合適的程度—->然後水洗，重復這個順序。中途，取出幾個夾在手帕裏的道具，可營造濃淡的層次感，渲染出水滴的圖案。達到自己喜歡的濃度後，將手帕浸泡在工房外的醋缸裏 3 分鐘，最後再次用幹淨的水清洗，熨燙待幹後就完成了！

在加拿大的小學裏可以體驗到叫做“紮染”的工藝，與日本的靛藍印染不同，紮染是采用許多鮮亮而誇張的色彩的。體驗靛藍印染之

前，我想象可能跟紮染差不多吧，但是向專家請教了靛藍印染工藝，通過直接接觸、感受靛藍的沈靜與靜謐感，又親自動手體驗傳統印染技法後，我才知道這與孩童時代玩過的紮染完全不同。

發揮自由想象力，親自動手制作傳統工藝品，這不僅對於日本人，而且對於外國人來說都是一種富有魅力的有趣體驗。請一定來箱本館“紺屋”來挑戰一下吧！

※關於預約信息：

http://www.hakomoto.com/english/english.htm

※預約者優先體驗印染，建議電話預約後前往。

大和郡山市といえば、まず金魚を思い浮かべる方が多いと思いますが、大和郡山では日本に古くから伝わる藍染に触れることもできます。

近鉄郡山駅から徒歩で 10 分ほど東へ向かうと、紺屋町という町があります。「紺屋」は染め物商のことで、昔は染め物商のお店が 20 軒ほど並んでいたことから、紺屋町と呼ばれるようになったそうです。紺屋町の中心には、職人たちが染め物に利用するために造った小川が今も残っています。

今回、藍と大和郡山市のシンボルである金魚を楽しめる箱本館「紺屋」にお邪魔して、ハンカチの藍染めを体験してきました。箱本館「紺屋」は 17 世紀から藍染めを生業（なりわい）としてきた町屋を改装した建物で、金魚すくい道場 「こちくや」（p８～９参照）のすぐ近くにあります。建物の中に入ると、金魚を取り入れたデザインの工芸品や美術品が展示されていて、奥には工房があります。工房では、ハンカチなど簡単なものからカバンやストールなど難しいものまで様々なグッズの藍染めを体験できます。

はじめに、職人の天野さんから藍染めの歴史について簡単に説明していただきました。藍染めは広く庶民になじみのある染料として、昔から風呂敷やのれんに使われていたそうです。19 世紀以降、化学染料の技術が発展するにつれて、藍染めの染料の原材料を造る人が減少し、藍は高級染料になりましたが、最近では藍の持つ殺菌や消臭などの効果が知られるようになり、藍染めが再評価されているようです。

説明後の藍染め体験は、ハンカチの柄のデザインから始まりました。自分の想像力を頼りに、世界に 1 枚だけのハンカチをデザインしていきます。石や割り箸、輪ゴム、フィルムケースなど身近にある道具を使って、染めない部分を造っていきます。わたしはあまり考えすぎず、こどものように思うまま道具を使ってデザインしました。

次のステップは、ハンカチを藍に浸す作業です。工房の外に用意されているエプロン、ゴム長靴、ゴム手袋を身につけて、一旦ハンカチを水に浸して絞った後、甕の中にある染料の液に押し込んでゆっくり動かしながら浸します。

Q: 甕に ある液は何ですか？

藍染めの染料です。藍の葉や石灰、お酒、小麦の殻などが混ぜられています。灰汁を加えながら徐々に発酵させ、2 週間ぐらいでできあがります。保存期間は、使い方によって異なりますが、2 ヵ月～10 か月です。藍の染料は生き物みたいなものなので、調子の善し悪しをこまめにチェックしています。

はじめにハンカチに浸した水をしっかり絞り、甕の中をゆっくり動かしながら浸すことも生き物である染料に負担をかけないためのようです。工房にある６つの甕の回りには時計がたくさんおいてありますので、染める時にしっかり時間を計って浸してください。

ハンカチを１分間浸したあとに甕から取り出すと緑色をしていますが、酸化によりだんだん青色へ色が変わっていくのが面白いポイントです。浸した後は、水洗いします。

※好みの濃さになるまで染料に浸す→水洗いする手順を繰り返します。途中でハンカチに挟んだ道具をいくつかを取ることで濃淡の変化が出たり、水玉模様を描くことができたりします。

好みの濃さになったら、工房の外にある酢のシンクの中に 3 分間入れて、最後にもう一度きれいな水で洗って、アイロンで乾かせば完成です！

カナダの小学校では「タイダイ」という絞り染めの体験をしますが、日本の藍染と違って、明るい派手な色をたくさん使います。体験前は、タイダイに似たものを想像していましたが、藍染めに関するお話を聞いたり、藍の落ち着いた色や美しさに触れたり、伝統的な染め方の技法を体験して、子供の遊びとは全く異なる体験に感じられました。

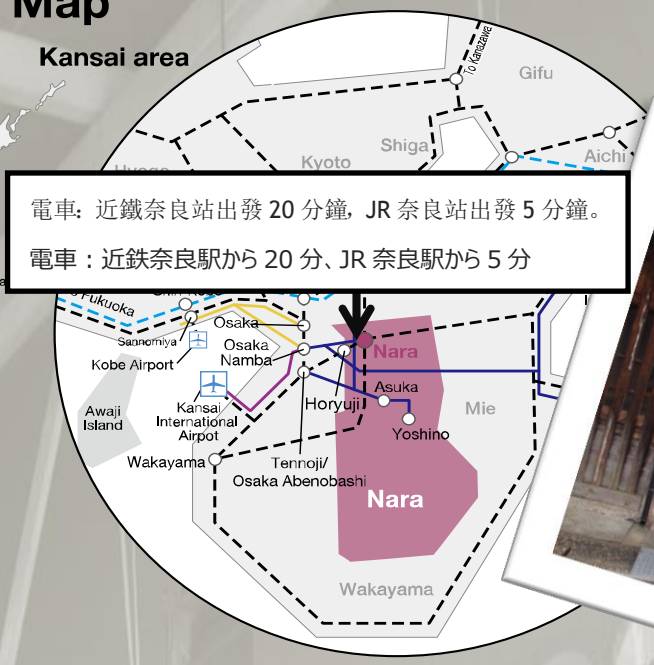
自由な想像力で伝統的なお土産を自分の手で作ることは、外国人にとっても日本人にとっても魅力的でとても楽しい経験になると思います。ぜひ箱本館「紺屋」で挑戦してみてください！

※予約情報について：
http://www.hakomoto.com/taiken/index.htm
※体験は予約優先ですので、電話予約してから行くことをお勧めします。

箱本館 紺屋

奈良縣大和郡山市紺屋町 19－1
TEL 0743-58-5531

Nara Access Map



電車：近鐵奈良站出發 20 分鐘，JR 奈良站出發 5 分鐘。

電車：近鉄奈良駅から 20 分、JR 奈良駅から 5 分

Route Map

大家好！

我們是奈良縣國際課的國際交流員，主要從事國際交流和觀光業務，發揮著促進奈良縣與海外交流的橋梁作用。《奈之良》，字如其意，“奈良的好地方”。在外國人的眼中，奈良縣有什麼樣的獨特魅力呢？我們取材、撰寫奈良縣的魅力所在和趣事樂聞，旨在將我們眼中的奈良魅力展現給海外遊客。若能夠激發您對奈良的興趣，或成為您感受奈良魅力的出發點，我們將不勝榮幸。這次我們取材於一座金魚遊動的城市——大和郡山市。神秘的金魚洋溢出的華美氣息，與古韻街道的歷史氛圍形成了鮮明的對比，深深地鐫刻在了我們的腦海裏。

最後，謹向協助本次采訪的“撈金魚道場・小竹屋”、“金魚資料館”、“紺屋”的諸位大和郡山市民致以深深的謝意。

奈良縣全體國際交流員

文閏貞 Jennifer・Kim Mouloud・Hammadou 張敏

こんにちは。

私たちは奈良県国際課に勤務する国際交流員です。奈良県と海外の交流を深める架け橋となるべく、日々、国際交流・観光業務に従事しています。『奈の良』は、外国人の目線で見た奈良県の魅力を外国の方に紹介するため、奈良県で見つけた魅力やおもしろいことについて自ら取材し、記事にしたものです。本誌が奈良県に興味を持つきっかけや外国人が感じる奈良の魅力を発掘する手がかりとなれば嬉しく思います。今回は金魚が泳ぐ城下町、大和郡山市を取材しました。金魚という神秘的な生き物の華やかさと、歴史的な町並みのコントラストがとても印象的でした。

最後に、今回の取材にあたり御協力していただいた「こちくや」と「金魚資料館」、「紺屋」をはじめ、大和郡山市の方々にお礼申し上げます。

奈良県国際交流員一同 ムンユンジョン 文 閏 貞 、キム ジェニファー、ハマドゥ ムルードゥ、チョウ ビン 張 敏

《奈之良》發行地： 奈良縣知事公事國際課 発行先：奈良県知事公室國際課

若對本刊有意見或疑問等請聯系下方：
〒630-8501 奈良市登大路町 30 奈良縣知事公事國際課
TEL +81-（0）742-27-8477 E-mail iad-nara@mahoroba.ne.jp